

重点１ 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

重点項目	観点	事業名	事業概要	今後の展開	目標	現状（R6度）	評価指標
ア コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進	① 地域住民等と学校との連携協力体制の整備	学校運営協議会事業	地域とともにある学校づくりを目指すため、地域住民が学校運営・教育に関心を持ち、共に課題解決に取り組むことで、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを支援する。	新規	単年	コミュニティ・スクールへの理解を深める研修会を開催する。	①開催数 ②参加人数
	② 学校と地域の教育資源等についての情報交流	地域学校協働活動推進事業	学校を核とした地域づくりを目指すため、地域と学校が連携・協力し、子ども達の成長を見守る。	継続	単年	町内の地域学校協働活動推進員の情報交換会を年に2回開催する。	開催数
	③ 地域住民と子どもをつなぐ実践の場の工夫	放課後子ども教室推進事業	放課後を利用し、子どもが心豊かで健やかに育むことを目的とし、地域住民の参画を得て、文化活動や体験活動に取り組む。	継続	単年	子どもの体験活動イベントを年に5回程度実施し、参加人数を延べ60人確保する。	①実施数 ②参加人数
	④ 子どもの健全な育成に向けての住民の意識や目的の共有化を図る工夫	放課後子ども教室推進事業	放課後を利用し、子どもが心豊かで健やかに育むことを目的とし、地域住民の参画を得て、文化活動や体験活動に取り組む。	継続	単年	放課後子ども総合プランにおいて目的や課題の共有を図ることを目的とした研修会を開催し、参加者を30人程度確保する。	参加人数
イ キャリア教育支援の仕組みづくりの推進	① 「ナナメ」の関係づくりを意識した学習機会の推進	子ども会事業	地域の子どもたちの活動を支える育成連合会の運営費を補助し、子どもたちの健全育成と地域コミュニティの活性化を図る。	継続	単年	異世代・異年齢交流や地域行事への参加を通じて子どもの社会性や自主性を育むため、五戸町子ども会育成連合会主催イベントを2回実施し、参加者延べ人数30名確保する。	①実施数 ②参加者延べ人数
	② ふるさと意識を醸成する場の拡充	相撲大会事業	伝統的な行事である相撲大会を通じて、子どもたちに郷土への誇りや愛着心を育むとともに、地域行事の参加意識を高める。	継続	単年	学校の協力を仰ぎ、参加者数を40人確保する。	参加人数
	③	中学生国際交流事業	相互の教育・文化の見聞や交流を通じて関心と理解を深め、国際的視野を広めるとともに、コミュニケーション能力を高め、グローバル社会で活躍できる人材の育成の礎をつくる。	新規	単年	交流事業を通して、異文化に関心を持ち、将来への展望の参考とする生徒が80%以上であること。	①アンケート件数 ②感想文提出数
	③	キャリア教育の推進 ごのへ夢・立志塾	医学に興味を持つ人材の育成を目指し、医学の背景にある壮年で崇高な「志の大切さ」に触れることを目的とする。	継続	単年	医療及び科学分野に興味・関心を持つ町内中学生に対し、質の高い学習プログラム（講演会や派遣講座）を提供する。	①講演会実施回数 ②派遣講座参加人数
ウ 子どもの読書活動の充実	① 読み聞かせボランティアグループの育成と支援	おはなし会事業	読み手の活動機会を創出するため、おはなし会事業を実施する。	継続	単年	おはなし会を企画し、読み手の活動機会を創出する。（延べ参加読み手数：20人）	①開催数 ②読み手の延べ人数
	② 読書活動推進のための啓発と情報提供	移動図書館事業	子どもの読書活動推進を図るため、移動図書館事業を実施する。	継続	単年	年間を通して、移動図書館を実施し、子どもの読書活動を推進する。（年間借受冊数：11,000冊）	①実施数 ②年間借受冊数
	③ 図書館相互の連携	図書館相互連携事業	他館と連携し、子どもが興味を持った本を提供できるよう、図書館相互連携事業を実施する。	継続	単年	町外の図書館と連携を行い、子どもが希望する図書を提供する。（年間借受児童書冊数：15冊）	年間借受児童書冊数

重点１ 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

重点項目	観点		事業名	事業概要	今後の展開	目標		現状（R6度）	評価指標
エ 家庭 教育 支援 体制 の 充 実	①	子育て支援に関する学習の推進と相談体制づくり	家庭教育支援事業	五戸町で活動している家庭教育支援チーム等と連携を図り、保護者が子どもの成長に応じた適切な関わりや家庭での教育的な役割を果たせるように支援する。	新規	単年	家庭教育支援チーム等と連携し、子育て世代の参加を促進するための内容や形式を工夫するとともに、参加しやすい時間帯・日程を設定し、受講環境を整備する。	未実施	①実施に係る打合せ回数 ②開催数 ③参加人数
	②	子どもの発達段階に応じた学習内容の工夫							
	③	保護者間のネットワークの構築	家庭教育支援事業	五戸町で活動している家庭教育支援チーム等と連携を図り、保護者が子どもの成長に応じた適切な関わりや家庭での教育的な役割を果たせるように支援する。	継続	単年	家庭教育支援チーム等と連携し、イベント（地域食堂、おさがり会など）を開催する。	1回開催 80人参加	①開催数 ②参加人数
オ 子 ど も の 体 験 活 動 の 推 進	①	多様な生活体験・自然体験・奉仕体験・社会体験活動を積極的に取り入れた学習機会の提供	放課後子ども教室推進事業	放課後を利用し、子どもが心豊かで健やかに育むことを目的とし、地域住民の参画を得て、文化活動や体験活動に取り組む。	継続	単年	外部団体との交流を踏まえた活動を年に5回程度実施する。	5回	実施数
	②	異世代・異年齢交流事業の推進	子ども会事業	地域の子どもの活動を支える育成連合会の運営費を補助し、子どもたちの健全育成と地域コミュニティの活性化を図る。	継続	単年	異世代・異年齢交流や地域行事への参加を通じて子どもの社会性や自主性を育むためのイベントを開催し、参加者延べ人数50人を集める。	①2回実施 ②50人参加	①実施回数 ②参加者延べ人数

重点2 地域の強みを生かした地域づくりを担う人財の育成

重点項目	観点		事業名	事業概要	今後の展開	目標	現状（R6度）	評価指標
ア 地域活動の実践者、 コーディネーターの養成	①	地域活動の実践者、コーディネーター養成のための研修会の開催	放課後子ども教室推進事業	放課後を利用し、子どもが心豊かで健やかに育むことを目的とし、地域住民の参画を得て、文化活動や体験活動に取り組む。	継続	単年	コーディネーター及びスタッフの資質向上を目的とした県主催の研修会への参加を促す。（参加人数：15人）	13人参加 参加人数
	②	地域活動の実践者、コーディネーターが活躍できる場の提供	地域学校協働活動推進事業	学校を核とした地域づくりを目指すため、地域と学校が連携・協力し、子どもたちの成長を見守る。	新規	期間内	実践者同士が互いに学び合えるような報告会を実施する。（参加人数30人）	未実施 ①開催に係る打合せ数 ②実施数 ③参加人数
イ を郷土に誇りを持ち、 地域を担う若者の育成、 地域の次代	①	地域における次世代を育成する仕組みづくりの推進	成人式事業	新成人からなる実行委員とともに、式典の運営を行う。	継続	単年	地域の次世代の人材を育成するため、成人式実行委員を15人程度確保し、式典内容（新成人企画イベント等）に応じ、実行委員会を設け支援する。	実行委員16人 会議開催数5回 ①実行委員数 ②会議の開催数
	②	各種研修会の情報提供と参加の奨励	五戸町民大学講座	新しい知識や教養を身につけ、受講者同士の交流を深め、生きがいのある生活を送ることを目的とする。	継続	単年	「町広報」「ケーブルテレビ」「五戸ちゃんねる」「各事業所へポスター掲示」の周知方法で情報提供を図り、参加者を確保する。	提供回数10回 ①情報提供数 ②情報提供の効果で参加した人数
ウ 地域活動に関わる人財の育成、 地域活動に関わる人財の育成	①	地域活動に関わる人財同士が交流を深める場の提供	放課後子ども教室推進事業	放課後を利用し、子どもが心豊かで健やかに育むことを目的とし、地域住民の参画を得て、文化活動や体験活動に取り組む。	継続	単年	福祉部局と連携し、総合的な放課後対策の推進を図るため、放課後子ども総合プラン運営委員会を開催し、子どもの取り巻く環境等について協議する場を設ける。	2回開催 延べ29人の参加 ①開催数 ②参加人数
	②	サークル、団体、NPO形成への支援	公民館講座	町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるように適切な学習機会を提供することを目的とする。	継続	単年	公民館講座において受講者を獲得できた講座は、サークル立ち上げへつながるため、新規講座の開拓をする。	新規講座は3回 新規講座開設数

重点3 人生100年時代の学び直しや生涯学習の推進

重点項目	観点		事業名	事業概要	今後の展開	目標		現状（R6度）	評価指標
ア ト直地域 教育しやりの 推進の推進	①	近隣の高等学校及び大学と連携した学習機会の提供	五戸町民大学講座	新しい知識や教養を身につけ、受講者同士の交流を深め、生きがいのある生活を送ることを目的とする。	継続	単年	年間受講者数を延べ330人程度確保する。	312人の参加者を確保	年間受講者数
イ 地域住民の生涯学習と学びを通じた社会参加の推進	①	学びの機会の拡充と積極的な活用	公民館講座	町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるように適切な学習機会を提供することを目的とする。	継続	単年	学びの機会の充実を図るため、多様なニーズに応じた各種公民館講座を年間100回以上開催し、延べ800名の参加者を確保する。	120回開催 延べ819人	①講座数 ②参加人数
	②	学習者や愛好者などによる自主グループ・サークル活動への支援	好きです！五戸町ボランティア運動事業	町や自治会等の町内団体が主催する活動やイベント等における人手が欲しいニーズとボランティアに参加したいニーズをマッチングする。	継続	単年	様々な経験の機会や社会参加の場を提供するため、広報や町HPを活用し町内へ広く周知する。また、派遣申請件数及び派遣人数の増加を図る。	派遣申請数5回 派遣人数9人	①派遣申請数 ②派遣人数
	③	学習ボランティア活動の普及・啓発	ボランティアバンク事業	地域住民の知識や技術をボランティアとして活用する。	継続	単年	ボランティアバンクの活用を促すため町のホームページや広報を活用し、利用しやすい環境を整備する。	未実施	①HPの作成 ②HPアクセス数
	④	広域的な情報収集とコーディネート機能の拡充	社会教育広報事業	教育活動や各種イベント情報を発信し町民の理解・関心・参加を促進することを目的とする。	新規	単年	インスタグラムを新たに開設し、教育活動や各種イベント情報について各種メディアを活用し周知する。	未実施	①掲載回数 ②アクセス数
ウ 性別・年齢・障がい等の生涯学習環境の充実に関わらない多様な	①	多様なニーズに応じた生涯学習環境の充実	五戸町民大学講座	新しい知識や教養を身につけ、受講者同士の交流を深め、生きがいのある生活を送ることを目的とする。	新規	単年	町民のニーズに即した講座をケーブルテレビで放映し、自宅でも講座を視聴できる環境を整備する。	未実施	放映回数
	②	県民カレッジ事業との積極的な連携	五戸町民大学講座	新しい知識や教養を身につけ、受講者同士の交流を深め、生きがいのある生活を送ることを目的とする。	新規	単年	あおり県民カレッジと連携し、講座を開催する。	10回実施	開催数
	③	デジタル活用支援の推進	公民館講座	町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるように適切な学習機会を提供することを目的とする。	新規	期間内	デジタルデバイドを解消するため、IT教室やスマホ・タブレット教室などを講座に取り入れる。	未実施	デジタルスキル教室の開催数

重点4 社会教育推進のための基盤整備

重点項目	観点		事業名	事業概要	今後の展開	目標	現状（R6度）	評価指標	
ア 社会教育推進の体制の充実	①	町の方針と重点等、諸計画に基づく事業の展開	社会教育計画策定・評価事業	地域住民の多様な学習ニーズに応え、生涯学習社会の実現を目指すため、社会教育の方向性と具体的施策を体系的に整理・明示する。 社会教育計画の実施状況を客観的に把握し、計画の実効性を高めるためのPDCAサイクルを確立する。	継続	期間内	令和13年度から18年度の社会教育計画を計画的に策定する。	令和7年度において、令和8年度から12年度の社会教育計画を作成中。	計画の作成
	②	事業評価のための指標の工夫		継続	単年	社会教育計画に基づき、事業が実施されているか年1回評価する。	1回評価	評価回数	
	③	広域的な学習情報の収集・提供		五戸町民大学講座	新しい知識や教養を身につけ、受講者同士の交流を深め、生きがいのある生活を送ることを目的とする。	継続	単年	五戸町にゆかりのある人材を関係事業所から情報を集め、講師として積極的に活用する。	1回
イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進	①	利用者の視点に立った環境の工夫	公民館利用満足度向上事業	施設の利便性等について、利用者からご意見をいただくための提案箱等を設置して、施設機能向上を図る。	新規	期間内	利用者からの提案を施設機能向上や運営に活かし、満足度を向上させる。	随時対応中	公民館改善箇所数
	②	団体間における学習活動の交流促進	文化まつり事業	町民が日ごろの学習活動や文化芸術の成果を発表・共有する場であり、相互に学び合い、地域のつながりを深めることを目的とする。	継続	単年	参加団体を50団体確保し、参加者を500人程度確保する。	51団体参加 参加人数500人程度	①参加団体数 ②参加人数
	③	住民の学習ニーズ把握のための調査方法の工夫	五戸町民大学講座	新しい知識や教養を身につけ、受講者同士の交流を深め、生きがいのある生活を送ることを目的とする。	継続	単年	各講座実施後にアンケートを実施し、講座の内容満足度80%を確保する。	満足度70%	満足度
ウ 社会教育関係職員等の養成と資質向上	①	研修会への積極的な参加の奨励	社会教育研修会参加事業	社会教育に携わる職員及び社会教育委員等関係者が、政策動向や実践的な知識・手法を取得し、地域課題への対応力の向上を図る。	継続	単年	研修会等への参加を奨励し、参加延べ人数15人を目標とする。	参加延べ人数は12人	参加延べ人数
	②	社会教育主事講習への計画的な派遣	社会教育主事養成事業	地域における社会教育・生涯学習を専門的に支援できる人材「社会教育主事」を養成し、教育の質の向上と持続可能な地域づくりの推進を図る。	継続	期間内	受講条件を満たす職員を把握した上で、教育委員会に最低1名の有資格者を計画的に配置できるよう、講習会へ教育課職員1名を派遣する。	令和6年度において、教育課職員1名を社会主事講習会に派遣し、講習を修了・資格取得済みである。	講習会派遣人数
	③	各市町村担当職員間の積極的な情報交換	社会教育担当者会議参加事業	市町村の社会教育担当職員が集まり、実践事例の交換や課題解決に向けた協議を行うことで、地域に根ざした社会教育の推進と職員の資質向上を図る。	継続	単年	年間で開催される会議に対し8割の参加を目標とする。	令和6年度は、担当者会議について、全て（14回）参加している。	参加率
エ 社会教育関係団体等の活動の支援	①	各種機関が主催する指導者養成講座の情報提供と参加の奨励	公民館啓発事業	地域団体・関係機関との連携を深め、住民の学びを参加を促進する「情報発信拠点」としての機能を強化する。	継続	単年	行政機関や各団体等からイベント等の啓発依頼があった場合に、公民館内にポスターやチラシを設置し情報提供を図る。	件数は把握していない	ポスター・チラシ掲示件数
	②	研修及び学習支援の相談体制の充実	社会教育関係職員研修参加事業	社会教育に携わる職員が業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技術の習得を目的とする。	新規	単年	地域課題に必要な研修に参加する。	未実施	①参加回数 ②参加人数

重点5 地域スポーツの推進

重点項目	観 点		事業名	事業概要	今後の展開	目 標		現状（R6度）	評価指標
ア スライ フツ ステ ー ジ の 推 進 に 応 じ た	①	若者のスポーツ活動の推進	スポーツ大会の企画運営事業	気軽に楽しめる生涯スポーツの大会開催を行う。	継続	単年	大会参加人数を増加させる。	483人	参加人数
	②	働き盛り、子育て世代のスポーツ活動の推進	町立学校体育施設開放事業	スポーツ活動の普及及び文化活動の振興並びに子どもの安全な遊び場の確保のために、学校施設を提供する。	継続	単年	学校体育施設開放制度を周知し、スポーツ環境を提供する。	35団体	利用団体数
	③	高齢者の運動機会促進事業	高齢者の運動機会促進事業	高齢者の体操教室等を開催し、運動機会の促進を目指す。	継続	単年	音楽に合わせて簡単な体操、座ったままでのトレーニング運動など、多様なメニューで教室を開催し、尚且つ、周知方法を工夫し、延べ参加人数の増加を目指す。	98回開催 延べ2,113人参加	①教室開催数 ②延べ参加人数
イ 学 校 の 地 域 に お け る 機 会 の 充 実	①	幼児期から子どもの体力向上方策の推進	キッズスポーツ普及事業	幼児期における運動・スポーツの体験できる場の提供を目指す。	継続	単年	町内の未就学児と低学年の児童に対する体操・スポーツ教室を複数回実施する。	39回開催	実施数
	②	学校の体育活動の充実	スポーツ大会出場祝金交付事業	五戸町のスポーツ活動の普及・推進・振興を図ることを目的として支給する。	継続	単年	祝金制度を町HPや広報などで周知し、対象者が申請しやすい環境を整え、交付漏れがないようにする。	未実施	掲載回数
	③	子どもを取り巻く地域のスポーツ環境の充実	スポーツクリニック事業	トップアスリート等を招聘し、スポーツクリニックや講演会を実施する。	継続	単年	トップアスリートを招聘し、スポーツクリニックを開催し、年1回程度実施する。	2回実施 129人参加	①実施数 ②参加人数
ウ 地 域 の ス ポ ー ツ 環 境 の 整 備 ・ 充 実	①	スポーツ活動推進のための体制づくり	五戸町スポーツ推進委員会事業	地域住民の健康増進と交流を目的に、スポーツ活動の普及啓発を行う。	継続	単年	スポーツ推進委員会議を定期的に開催する。	4回	会議開催数
	②	総合型地域スポーツクラブの育成・推進	スポーツ体験PR事業	スポーツ遊び等を通じて、身体を動かすことの楽しさや喜びを体感しながら、様々なスポーツに興味を持ってもらい、スポーツクラブ会員増を図る。	継続	単年	年3回程度開催し、本活動を経てスポーツクラブに加入する児童・生徒の増加を目指す。	①3回実施 ②延べ76人参加	①実施数 ②延べ参加人数 ③スポーツクラブ加入者数
	③	地域スポーツ活動を支える人材の育成・活用	五戸町スポーツ推進委員会事業	地域住民の健康増進と交流を目的に、スポーツ活動の普及啓発を行う。	継続	単年	地域スポーツ活性化のため、各種研修会やイベントへのスポーツ推進委員の参加を促進する。	延べ42人参加	延べ参加人数
	④	地域スポーツ施設の有効活用・利用促進	スポーツ施設管理	地域住民の生涯学習や健康づくり、コミュニティ形成を支える基盤として、誰もが安全・快適にスポーツに親しめる環境を整備・提供する。	継続	期間内	安全かつ快適に利用できる施設環境を確保する。	随時対応	施設改善箇所数

重点5 地域スポーツの推進

重点項目	観点		事業名	事業概要	今後の展開	目標		現状（R6度）	評価指標
エ 競技スポーツの推進	①	関係機関・スポーツ団体等との連携	地元プロスポーツチーム連携事業	ヴァンラーレ八戸や東北フリーブレイズ等との協働・交流イベントを実施し、地域コミュニティの形成や五戸の魅力について幅広く発信していく。	継続	単年	地元プロスポーツチームと協働・交流イベントを実施する。	1回実施	イベント協力回数
	②	スポーツの科学の活用	スポーツクリニック事業	トップアスリート等を招聘し、スポーツクリニックや講演会を実施する。	継続	単年	選手のケガ予防及びパフォーマンス向上のため、専門的知識を有した方を招聘し、研修会を実施する。	未実施	①開催数 ②参加人数
	③	各競技の普及と競技人口の拡大	スポーツクラブスクールコース事業	スクールを通じて、スポーツの持つ魅力や楽しさを体験すること、スポーツを通じて将来の目標や生きがいを持つことにより国内外で活躍するアスリートや社会に貢献する人材育成を目指す。	継続	単年	スポーツクラブスクールコースの入会者（サッカーU8・レディース・U15ガール・ソフトテニス・わんぱくキッズスクール）及び参加者数（かけっこ）の増加を図る。	入会者数91名 参加者21名 開催数221回	①入会者数 ②参加者数 ③開催数
	④	選手の発掘・育成							
オ スポーツによる地域の活性化	①	スポーツを通じた地域の活性化	町民運動会事業	明るく健康で活力にあふれた地域づくりを目指すため、町民が一堂に集まり、スポーツやレクリエーションなどを通して町民の親睦や健康増進を図る。	継続	単年	プロジェクトチームで運営方法の見直しやプログラム内容を充実させ、参加者数の増加を図る（約800人）。	プロジェクトチーム会議は3回開催 700人程度	①プロジェクトチーム会議開催数 ②参加人数
	②	スポーツによる交流の推進							
	③	スポーツ活動推進のための情報発信	SNS発信事業	SNSツールを使用し、町民に見える化した形でスポーツを身近に感じてもらう。	継続	単年	スポーツイベント等について、SNSで発信する（120件）。	117件	発信件数

重点6 文化財の保存と活用

重点項目	観 点		事業名	事業概要	今後の展開	目 標		現状（R6度）	評価指標
ア 文化財の保護と保存の推進	①	指定文化財の保存・修理と防災施設整備の充実	旧園子家住宅管理事業	旧園子家住宅の管理を行い、保存活用を図る。	継続	単年	パートタイム会計年度任用職員と、教育課職員で清掃や環境整備等の管理を年間70日程度実施する。	70日程度実施	管理日数
	②	文化財の調査や記録作成と市町村による文化財の指定	文化財保護審議会事業	文化財保護審議会との連携による文化財調査、視察、研修会等を実施して文化財の保存を図る。	継続	単年	文化財調査、視察、研修会等を3回実施する。	3回実施	実施数
	③	文化財保護思想の普及・啓発	このへ郷土館管理事業	このへ郷土館で特別展等を開催し、文化財保護思想の普及を図る。埋蔵文化財の適切な管理を行うため、収蔵場所であるこのへ郷土館の適切な管理を行う。	継続	単年	特別展等を2回開催する。	2回開催	開催数
イ 文化財の公開と活用	①	埋蔵文化財の発掘調査・研究と適切な収蔵	埋蔵文化財調査研究事業	関係機関と連携協力して、五戸町に関する埋蔵文化財の調査研究を行う。	新規	期間内	1回	計画的な調査研究は行っていない。	調査研究回数
	②	文化財についての情報発信と活用の促進	文化財関係事業広報事業	SNSや広報誌を活用して文化財関係事業等の広報を行う。	継続	単年	文化財関係事業等の広報を五戸町教育委員会公式フェイスブックページに35件程度、広報五戸町に5件程度掲載する。	文化財関係事業等の広報を五戸町教育委員会公式フェイスブックページに35件程度、広報五戸町に5件程度掲載。	掲載回数（SNSと広報の合計回数）
	③	史跡等の公有化と整備・充実	文化財パトロール事業	埋蔵文化財包蔵地等の現状確認を計画的に行う。	継続	単年	埋蔵文化財包蔵地等の現状確認を実施する（40件）。	38件実施	パトロール件数
ウ 伝統芸能・技術の継承	①	伝統芸能・技術の保存及び後継者の育成	伝統工芸継承活動事業	伝統工芸の後継者育成のため、体験会等の実施支援を行う。	継続	単年	このへ郷土館で体験会を開催し、5団体程度の支援を行う。	4団体の支援	支援団体数
	②	伝統芸能の発表機会の拡充	伝統芸能保存伝承活動事業	伝統芸能や民俗芸能を次世代へ確実に継承することを目的に、記録・保存・後継者育成・普及啓発などの活動を支援する。	見直し	単年	伝統芸能保存団体の発表機会を拡充させるため、県内外の伝統芸能発表大会等の情報提供を行う（3件）。	3件提供	情報提供件数
	③	子どもの伝統芸能伝承活動の推進	伝統芸能保存伝承活動事業	伝統芸能や民俗芸能を次世代へ確実に継承することを目的に、記録・保存・後継者育成・普及啓発などの活動を支援する。	継続	単年	子どもへの伝統芸能継承を支援するため、継続的に児童生徒に伝統芸能継承活動をしている5団体へ支援を行う。	4団体は保存団体として補助金を交付。五戸太鼓には、講師費用弁償を町で支払い。	支援団体数